

## 従業員のみなさまへ

ツインズグループとして、大々的なSDGsへの取り組みも始まり、ペットボトルキャップ回収のご協力もいただくようになりましたが、「SDGsへの関心が深まったよ」「個人/家ではこんなこと始めたよ」等変化はありましたか？「ごみを小さく丸めている」「エコバックを使用し余計な袋はもらわない」「不要タオルを雑巾にしている」等々、ちょっとした行動や気にかけてもSDGs精神に通じているものです。

ご自宅や個人で気にかけている行動などありましたら、ぜひ情報をご提供ください。

## ★知ってる？★ どうして電気代の値上げが続いているの？？？

それは、火力発電の燃料資源は石炭・液化天然ガス(LNG)・石油で、ほぼ輸入です。石炭は「炭鉱事故防止の安全調査の厳格化による産出量DOWN」、LNGはCo2排出量が石炭の半分のため「脱炭素を目指す各国の需要UPで輸入競争」があり、石油等の全燃料資源の価格高騰が続いている(=発電費用がUP)からなんです。

誰もいない部屋の「つけっぱなし」は無駄な電気代・Co2排出になるし、エアコン温度も1度下げただけでCo2排出・電気料が減り、会社の経費削減にもなるんです。

誰も居ないけど電気ついてな→「まいった」 ちよつと寒いな→エアコン類「つけちゃお」ではなく、「消灯!消灯!!」「ひざ掛けしよ!!上着羽織ろ!!」と社内協力いただければ嬉しいです。

## 社内エコルール設けさせていただきます!!

エアコン基本設定は 夏：冷房 **26℃**まで (ビジネス推奨は28℃といわれています)

冬：暖房 **24℃**まで (ビジネス推奨は20℃といわれています)

色々ご意見はあると思いますが、まずはやってみてください！無理なら直接ご意見ください！

## BAJ SDGsの取り組み

BAJ株式会社は『～地球と一緒に呼吸する～』をカンパニーテーマに掲げ、『心地よいをあなたと未来に』をコンセプトに据えたヨガ&フィットネスウェアブランドリアルストーンを中心に、サステナブルな素材や取り組みを意識した商品づくりを行っています。

## Realstoneサステナブル商品のラインナップ

サステナブルな素材はまだ市場に少なく高価なものが多い状況の中<2021年AWコレクション>では、15アイテム中4アイテムに環境に優しい草木染(タマネギ由来)を施した素材を利用しました。また、素材だけでなくサステナブルな取り組みとして、バイオマス資材の使用や、ECサイトでは商品を長く大切に利用いただけるよう取扱い説明の記載、【国際ガールズデー】に合わせたデザインの商品を企画し売上の一部を寄付するといった取り組みを行いました。

<2021年春夏コレクション>では、天然由来の素材(オーガニックコットン、植物由来の「リヨセル」)リユース素材(リサイクルポリエステル)など、37アイテム中18アイテム(約48%)にサステナブルな素材を利用して、2021秋冬コレクションよりさらに環境を意識した商品ラインナップとなっています。

## ペットボトルゴミの削減を目指します！

BAJ社内では、印刷時に裏紙の積極利用や端切れの雑巾を使うなどのリユースを行ったり、全員がマイボトルを利用しています。BAJ設立当初よりもペットボトルごみがかなり減り、次のステップはペットボトルゴミゼロWeekを設定してペットボトルゴミの削減を目指します！

## ～編集後記～

明けましておめでとうございます。今年は『36年に一度の奇跡の金運年、五黄の寅年(ごおうのとらどし)』です。身も心もお財布も暖かくなりますように🌸本年もよろしくお祈りします☺



## 今月の投稿

BAJ パタンナー・デザイナー  
山本さん個人取組紹介

今回は、BAJ山本さんが個人で取組んでいる  
エコな取り組みをご紹介します

- ・洗濯洗剤⇒界面活性剤を含まない物を使用
  - ・食器洗剤⇒界面活性剤を含まない物と、界面活性剤が微量の物を併用
  - ・食器を洗うスポンジは、植物性の物を使用
  - ・ヨーグルト⇒プラゴミが出るのが嫌だったので、ヨーグルトメーカーを利用
  - ・夜間の電灯は、ソーラーチャージ出来る物を使用
  - ・家の掃除は、ホタテ)
- から作られたエコな物を使用

→別紙にて写真を交えてご紹介いただいています



## 今月のこの人

土田 高史  
(統括本部長)

WORKSは、在庫管理、受注業務、出荷業務、品質管理業務、カスタマーサービスに加え、生産業務を担っています。

全て、製品に関わる業務であり、製品は会社にとって、とても重要で大切な財産・資産です。

そして、その製品を顧客へ届け、喜んで使ってもらえるところまでが任務です。

製品(もの)の大切さを理解し、尊む精神が、日々の業務を効率化させ、無駄を省き、様々なものを大切に扱う。それがより良い未来に繋がります。今後の取り組みとして、生産現場から発生する不良品やロス分を材料として再利用し、新たな製品を生み出していきたいと考えています。廃材になるものも、本来は製品になるべき材料から生まれたものですから。

今回はこの人・・・ **社長室長 関谷 功**